



2024年6月7日

各位

会社名 株式会社ハイレックスコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 寺浦 太郎
(コード番号 7279 東証スタンダード市場)
問合せ先 経理グループ担当執行役員 芦田 安功
(TEL 0797-85-2500)

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について

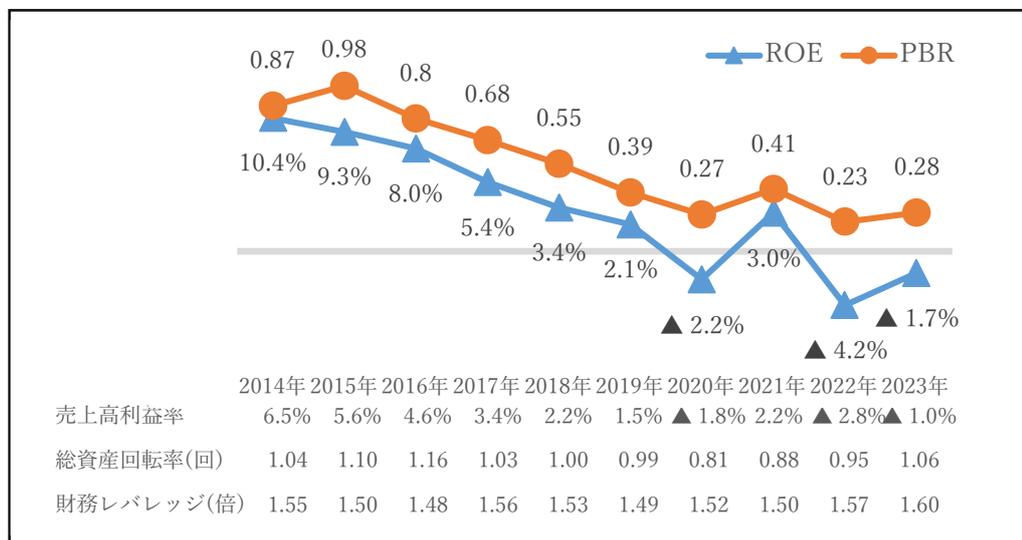
当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、審議・決定いたしましたので下記の通りお知らせいたします。

記

1. 現状の評価

当社グループのROEは、2014年をピークに低下傾向にあり、2022年及び2023年10月期においてはグループ各社の収益性の低下に伴う固定資産の減損損失を27億円、45億円を計上した影響もありマイナスとなっております。また、ROEの低下に伴いPBRについても1倍を下回る水準で推移しております。

<PBRとROEの推移>



(※ROE=売上高利益率×総資産回転率×財務レバレッジ)

ROE低下の主たる要因は売上高利益率の低下であります。結果として株主・投資家の期待する資本収益性の達成(ROE向上)に十分に繋がっていないことから、当社の株価やPBRが上昇しない主たる要因にもなっていると認識しております。

2. 今後の取り組みについて

ROEの改善に向けて、以下の取り組みを実施してまいります。

(1) 収益性の向上

事業基盤と成長基盤を強化してまいります。

① 自動車事業

(ア) コア領域（ケーブル・ウィンドレギュレータ等の既存主力製品）

グローバルNO.1の『ものづくりの深化』と『付加価値』を追求し、利益向上に貢献してまいります。

さらなる信頼性と競争力の向上で欧州、中国、インドと展開してきた各拠点で事業収益性を強化してまいります。（稼ぐ力の強化）

(イ) 成長領域（モビリティ変革に追従した新しい主力製品・新たなビジネス分野）

EVに代表される自動車の開発・生産方法の変化に伴い、当社のドアモジュールやその他製品領域におけるモジュール化/パッケージ化へのニーズが高まっております。成長領域の柱として、周辺部品を統合し機能を付加した商品性の高いモジュール製品を積極的に拡充してまいります。

また、自動車のSDV(Software Defined Vehicle)化を見据えて、当社のモジュール製品に制御技術を統合し、ドア（開閉）システムサプライヤへと進化してまいります。

② 非自動車事業

医療機器、産業機器の各事業部の強みを活かし、現場とマネジメントが一体となった迅速な意思決定で市場に即応し、新たな価値を持つビジネスを展開してまいります。

(2) 資産の効率性向上

政策保有株式の売却を通じて、将来の成長投資への適切な投入を実施してまいります。そして、成長投資を付加価値向上と利益改善につなげて、営業キャッシュフローの拡大に努めることで稼ぐ力の向上を図ります。

なお現状で連結純資産比 20%超となっている政策保有株式の保有高については10%をターゲットとして縮減を進めてまいります。

(3) 財政状態/財務安全性

自己資本については、経営と株主還元の双方の安定性を勘案したうえで適切な水準を維持しつつ、成長領域への投資ニーズに即応できるよう活用してまいります。

また、自己資本とのバランスを勘案し負債の活用も進めてまいります。

(4) IR活動

従前より実施してまいりました機関投資家向けのIR活動については、スモールミーティングの拡充等、精力的に取り組むことで当社の置かれた事業環境と財務状況、それらに対する事業戦略とその経過を投資家と共有してまいります。また個人投資家向けの説明会等イベントの活用で、より幅広い層を対象とした情報開示を進めてまいります。

以上